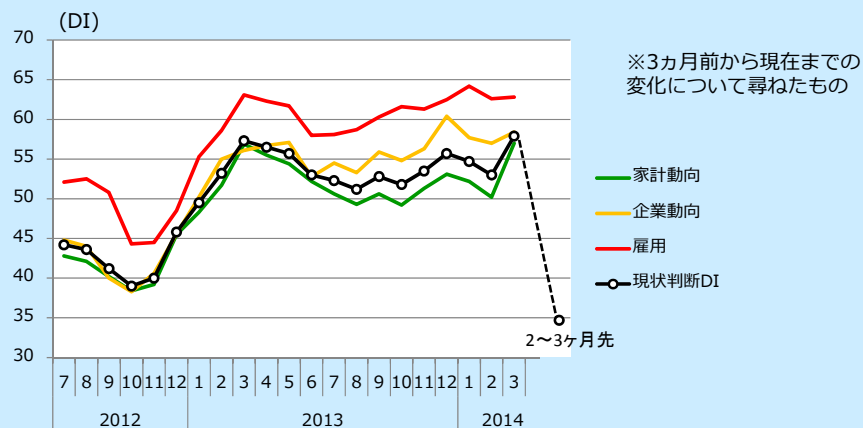


日本：マインド関連指標（2014年3月）

MRI Daily Economic Points
April 17, 2014

景気ウォッチャー調査

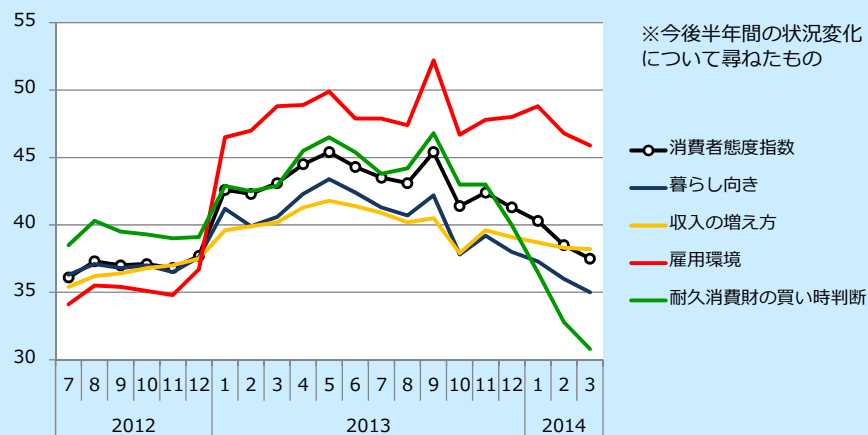


評価ポイント

景気ウォッチャー調査

- 2014年3月の景気の現状判断DI（3カ月前からの変化）は、57.9と前月から+4.9ptの大幅上昇を示した。
- 家計動向DIが+6.8ptと大幅に上昇したほか、企業動向DI・雇用DIはともに上昇、引き続き高水準にある。
- 景気判断に対するコメントをみると、改善の理由として、消費増税前に幅広い品目で駆け込み需要が強まったことが大きく寄与した。一方、悪化の理由としては、自動車の駆け込み需要の一服などが挙げられていた。
- 景気の先行き判断DI（2～3ヶ月前までの変化）は、34.7と前月から▲5.3pの大幅低下となった。低下は4ヶ月連続。増税後の反動減に対する不安が広がっている。

消費動向調査



消費動向調査

- 2014年3月の消費者態度指数は、前月から▲1.0%pの37.5となり、4ヶ月連続で低下した。
- 同指数を構成する消費者意識指標（暮らし向き、収入の増え方、雇用環境、耐久消費財の買い時判断）をみると、前月に続き、全項目で前月より低下した。
- なかでも大幅な落ち込みをみせているのは、「耐久消費財の買い時判断」である。本調査は今後半年間の状況変化を尋ねたものであり、消費増税後の消費意欲の減退を織り込んだ結果と言えよう。
- 一方、雇用環境は、やや低下したものの、水準としては高水準を維持している。

基調判断と今後の流れ

- 家計や企業のマインドは、3月までの現状判断は高水準を維持しているものの、4月以降の先行きに対しては慎重な見方が広がっている。
- 消費増税による負担増もあり、14年央にかけてマインドの一時的な悪化は避けられないものの、その後は雇用・所得環境の改善が下支え要因になり、回復基調に復すると見込む。ただし、株価の軟調な推移が続けば、回復のタイミングやテンポが遅れる可能性には注意が必要である。